

桜島や錦江湾が 一枚絵で見える風景が

篤姫を育んだ



NHK制作局 チーフ・プロデューサー

もと ひこ

佐野 元彦さん

Motohiko Sano



(提供:NHK)

大河ドラマ「篤姫」が好調だ。関東地区での視聴率は毎回20%以上をキープし、第9回の「篤姫誕生」では25%を超える高い数字を記録した。特に鹿児島では、第20回までのうち測定された9話分の平均視聴率は33%を超えている。

この結果に「視聴率がすべてではないけれども、より多くの方に見ていただけなのは大河ドラマにとって大切なこと。幕末大河ドラマは当たらないと言われる中で違う結果になってきていることはとても嬉しい」と語るのはチーフプロデューサーの佐野元彦さん。

昭和59年の入局以来、ドラマ制作部門を中心に経歴を重ね、自身4回目の大河ドラマとなる今回は、企画の立ち上げからキャスティング、スタッフの配置、イメージポスターの制作など広範囲に番組制作の指揮を執る。

これまでに主なものだけでも連続テレビ小説「天花」や土曜ドラマ「氷壁」、「マチベン」などの制作に携わってきた。

「テレビは作り物の良さと作り物であってはいけな
いもの大切さの両面を持つ分野。僕はやはり作り物
が伝わる時代やその時々の人々の感情、心の持ちよ
うを大切にしたいので、それに深く関われる制作部
門がいいですね」と語る佐野元彦さんにドラマの手応
えや今後の見どころなどを語ってもらった。

「一本道」を進む篤姫の姿に 勇気づけられてほしい



篤姫を演じる宮崎あおいさんは、大河ドラマ史上最年少で主演に抜擢された。(提供:NHK)

ドラマ制作で重視した点は

幕末の大河ドラマは、様々な権謀術数
がうごめく中でいろんな政治劇が夜進ん
でいくというイメージがあり、ともすれば
戦国時代よりも男性色の強いものになり
がちなんです。しかし、幕末は今の時代の
ほんの少し前の時代であって、そして今の
時代というのは幕末の延長でしかない。そ
の時代も人々は普通に泣き笑いしていて、
家族は愛し合っていた。たまたま世界史
的なのねりの中で外圧が起きた時代なん
だというふうになんて新しく幕末を見直したい
と思いい、それを端的に表現するために女
性が主人公の「篤姫」を描くことになり
ました。

それからこれは大河ドラマの宿命でも
ありますが、特に今回は女性の一代記な

ので一人の女優に幅広い年月を演じてい
ただくという難しさがあります。これま
でもベテランの方に若い頃も演じてもら
うことがありましたが、今回はあえてヒロイ
ンが十代を過ごす薩摩時代を丁寧に描
こうと思っていたので、十代の青春期を自
然に演じていただけたら俳優さんに主役を
やっていただきたかったです。その人が
成長していく姿が篤姫の成長していく姿
になる。だからその方が四十代を演じる
ことになる未知への恐れよりも、十代を
リアリティを持って演じてもらうことに今
回は力点を置きました。

これまでの手応えをどう感じて いますか

幕末ホームドラマというキャッチフレーズ
にしましたが、家族愛や友情、恋心という
現在と通じるような気持ちや大事に描
いています。それは現代の人がわかりやす
いから描いたのではなく当時も絶対そう
だったという確信の下に作ったんです。そ
れが多くくの視聴者の皆さんに届いてい
るかなと感じています。

それとヒロインは後年、大奥の中で生活
する「かごの中の鳥」になっていきますが、
その前の薩摩時代、つまりヒロインの青春
時代を丁寧に描いたことで、桜島を代表
とする風景や太陽光線の雰囲気番組の

滑り出しのカラーをうまく作ってくれて、
視聴者の皆さんを物語の中にうまく引き
入れてくれたのではないかと思います。

後半のみどころは

薩摩時代の教えである「女の道は一本
道」という篤姫の決意を大奥の中でどの
ように貫いていくか。衰退期にある徳川
幕府の大奥というさまざまな勢力と思
惑が渦巻く中で、女だからこそ一本筋を
通して生きようとした一人の女性の姿を、
しかも相手を倒していく生き方ではなく
自分の仲間に取り込んでいく、でも自分
の道は曲げないという強い意志を持った
女性の生き方を描いていくのでぜひ楽し
みにしてほしいと思います。

これから夫の家定は亡くなる、皇女和
宮はやってくる、14代将軍の家茂は亡く
なる、そして薩長は攻めてくるというよう
に、彼女の人生にこれでもかというぐら
いハードルがやって来ます。しかし彼女は決
して振り返らないし、決していいいじもし
ません。多くの悩みを抱えながらも、周り
をしつかり取り込みながらまっすぐに歩
いて行こうとする姿に、ドラマを見てくださ
る方々が勇気づけられたら嬉しいですね。

鹿児島印象は

どんな育ち方をすれば篤姫のような
生き方ができるのだろうかという疑問をもつた
時に、原作者の宮尾先生から「とにかく
早く鹿児島に行つて、桜島を見てきな

い。そうすれば篤姫の気持ちの核がわか
る」と言われたんです。それですぐに鹿
児島に下見に行つたらやはり分かりまし
たね。桜島のいかにも生きてるぞとい
う雄々しさと錦江湾の海とは思えないよう
な穏やかさ、これが一枚の絵として見ら
れる景色に感動しました。しかもどこか
特別な場所へ行つてということではなく、
どこからでも見ることが出来る。これを日
常的に見ながら育つた人は幅を持った豊
かな人間性が身につくだろうなと感じま
した。風土が人を育てるところがあると
思うのですが、そんな一枚絵の景色がそ
ういう人を育てる大きな要素になってい
る、全国でも珍しい土地柄ではないかなと
いうのが今持っている感想です。



第24回「許すまじ、篤姫」より

(提供:NHK)